（別紙５－1）

平成30年度 学 生 海 外 研 修 報 告 書（担当教員）

鹿児島大学長　殿

授業担当者

所属/職名: 農学研究科/准教授

氏　　名: 花城　勲

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
研修先（国・地域） 滞在地	モンクット王工科大学トンブリ校　他（タイ・バンコク）
研修期間	平成31年2月12日～平成31年2月23日

〔研修の成果〕

今年度は、農学研究科生物資源化学専攻の3名の修士課程大学院生を提携校KMUTTに派遣して短期研修を行った。バイテク関連講義を受講するとともに、ラン農園、味の素・アユタヤ工場、日本向け生鮮野菜輸出企業、ローカルな食品市場などを視察した。これらの活動を通じて熱帯・亜熱帯地域における農業や食品産業の問題点や、その解決のためのバイテクの実践的活用事例を学ぶことができた。主要活動の一つとしてKMUTT国際コース学生(修士) を交えて行った問題発見解決型学習（Problem-Based Learning, PBL）では、「廃棄物ゼロ達成のために」を今年度のテーマに掲げ、両校の学生がそれぞれの国の問題点を提示し、解決策を話し合い、両校教員を含む参加者全員に対して派遣学生の全員が口頭発表をした。KMUTT側参加者からは「コミュニケーションしようとする意志がお互いに有り、言語のバリアを超え、何より討論していて楽しかった」というコメントを頂いた。また、タイの歴史と文化や、今日の日タイ関係とその歴史を学ぶため、バンコク・その他の寺院やチャクリ王朝について学べるラタナコーシン展示館、アユタヤ市内の日本人村と歴史記念公園、などを訪れた。これらの訪問・視察を通じて、タイ王国の成り立ちや王室と国民との関係、タイと日本との長い交流の歴史などを学んだ。食品市場では現地の食材や食品を実際に目にすることで現地の食文化について理解を深めるとともに、買い物を通じて市井の人々との会話と交流を図り、英語が通じなくとも意志疎通を図る経験を積むことができた。東南アジアの大都市バンコクを実際に肌で感じた経験や、KMUTT学生をはじめとするタイ人や諸外国の人々とコミュニケーションした経験は、今後、海外において、或いは地域において国際的な視野で活躍するバイテク・ビジネス人材となることを目指す学生にとり貴重な財産になったと考えられる。活動の全体を通して修士課程学生には同時開講科目の学部生参加者のリーター役を務めてもらった。PBLでの意見の集約や相手校学生との意見調整、視察日程中の要所要所での学生への必要な指示や指示事項の確認と教員への報告などの活動を通して、リーダーとしての役割や振る舞い、要求される資質、といったものに気付きが得られたようである。

〔今後の課題〕

今年度はバイテクに馴染みの深い分野の専攻学生3名であったため、専門知識の不足というよりも技術用語の英単語の語彙力が不足しているために活動中の内容の理解がやや不十分である様子が見受けられた。次年度はこれら技術用語の語彙力向上のための工夫が必要であると考える。また、参加学生を早い段階で確定させ、英会話の自主学習の推奨や、事前講義の中で英語の使用のみに制限する回を設けるなどして、まずは英語で抵抗・躊躇なく発信する姿勢を身に着けさせたい。